

# 家庭におけるジェンダー意識に関する調査（ダイジェスト版）

千葉市女性センターでは、「家庭におけるジェンダー意識に関する調査」を実施しました。この調査は、家庭での性別役割分担の意識と実態やジェンダー観などについて調べ、男女共同参画の視点から整理・把握することで、今後の情報提供や施策に反映させていくことを目的としています。

※ 調査の対象	千葉市にお住まいの20歳以上の男女各1,500人(無作為抽出)
※ 調査の方法	郵送配布—郵送回収法
※ 調査の期間	平成18年11月14日～平成18年11月30日
※ 回収の状況	有効回答数：1,163件（有効回答率：38.8%）

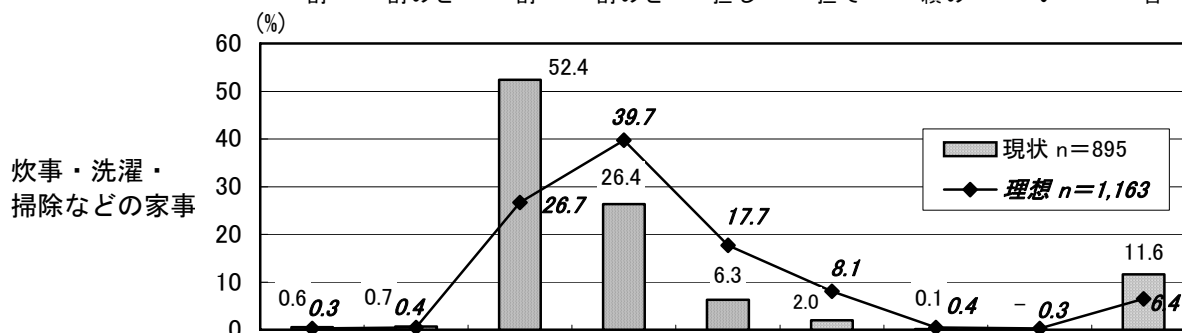
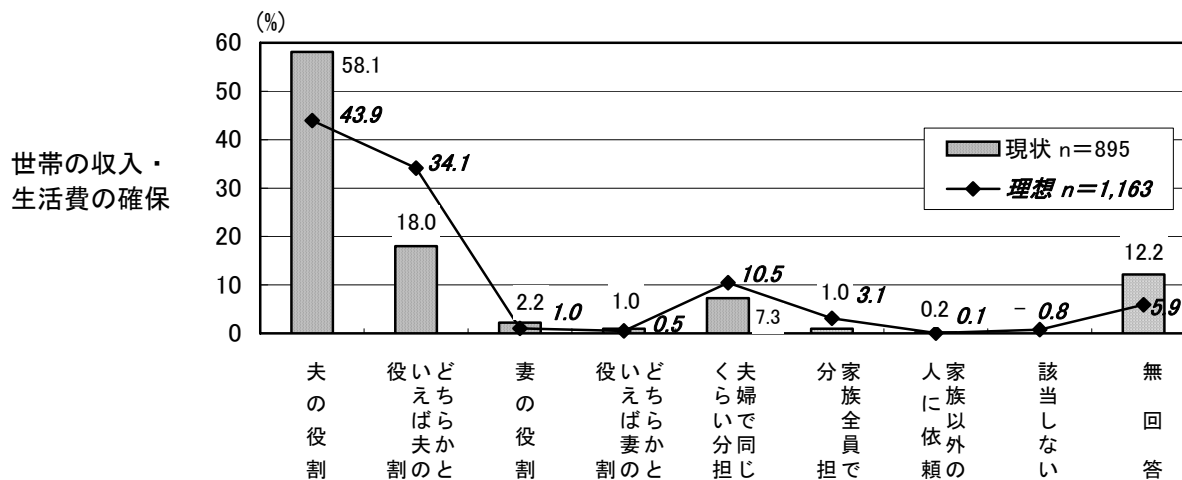
注1) %は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しているため、%の合計が100%にならないことがあります。

注2) グラフは、内容に応じて、抜粋したものを掲載しています。

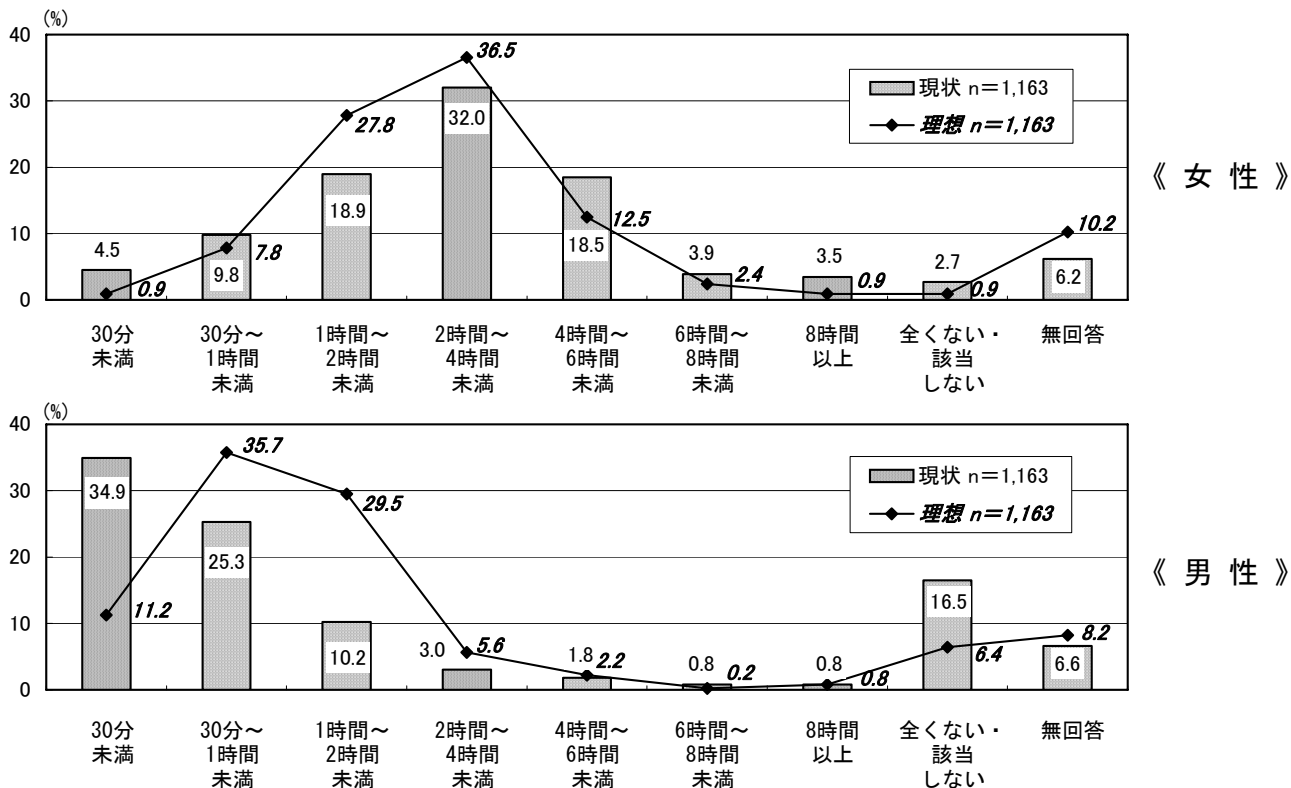
## 家庭での生活意識等について

【家庭での役割分担】について、理想とする役割分担（理想）と実際の家庭での様子（現状）を比較したところ、以下のような結果となりました。

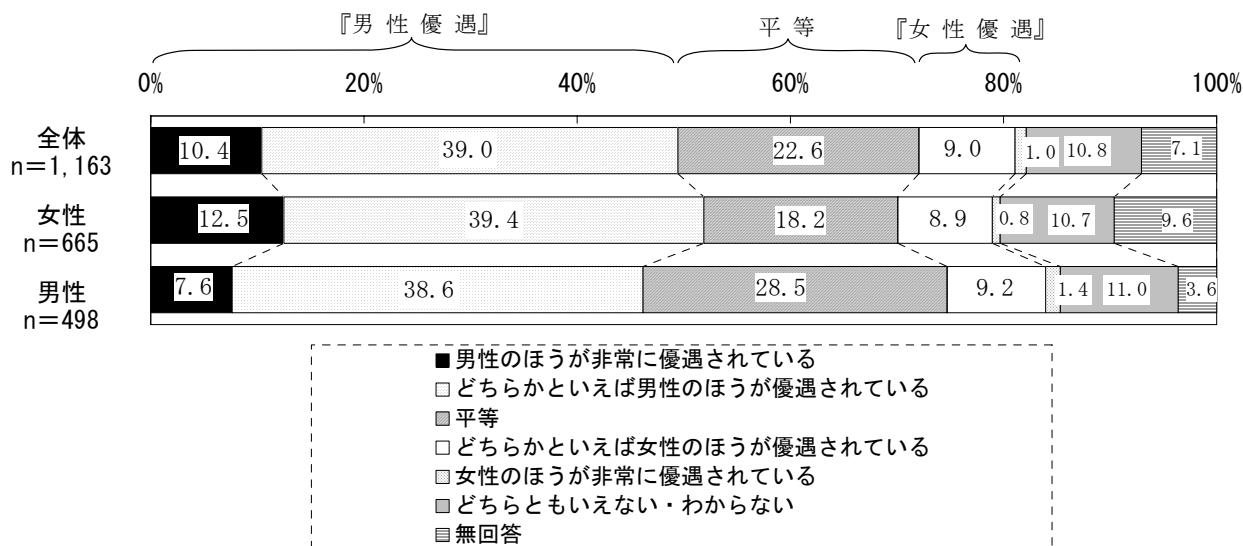
- 世帯の収入・生活費の確保(グラフ上)については、理想と現状共に「夫の役割」が最も多いことがわかります。
- 炊事・洗濯・掃除などの家事(グラフ下)については、理想では「どちらかといえば妻の役割」が最も多く、現状では「妻の役割」が最も多いことがわかります。



【ふだんの生活で家事全般に費やす時間】について理想と現状を比較したところ、女性では、理想と現状共に「2時間～4時間未満」が最も多いことがわかります。男性についてみると、理想では「30分～1時間未満」が最も多く、現状では「30分未満」が最も多いことがわかります。



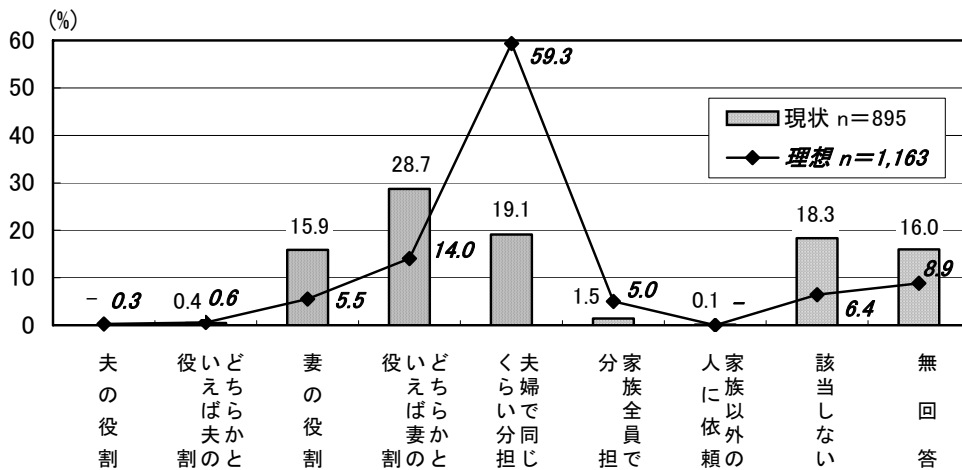
【家庭生活における男女平等意識】について、男女共に、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が最も多く、4割近くに達しています。『男性優遇』は女性では51.9%、男性では46.2%となり、「平等」は女性では18.2%、男性では28.5%となっています。



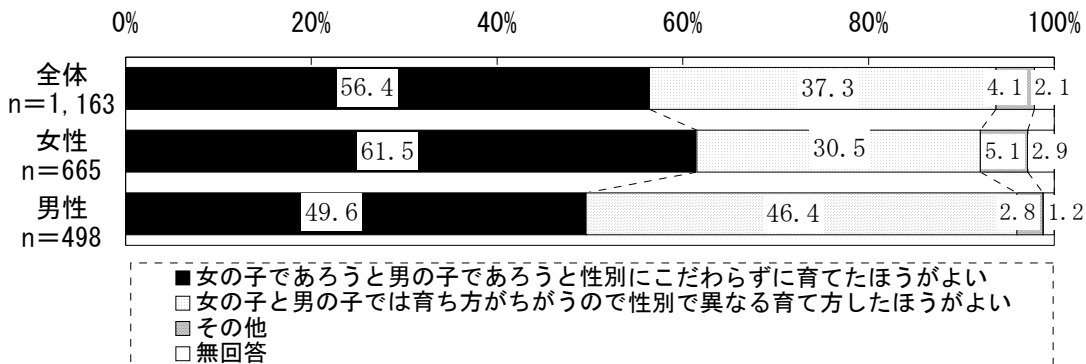
※『男性優遇』＝「男性のほうが非常に優遇されている」「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」を合算  
 ※『女性優遇』＝「女性のほうが非常に優遇されている」「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」を合算

## 子どもをもつこと・育児について

【子育てにおける家庭での役割分担】について、理想と現状を比較したところ、「夫婦で同じくらい分担」において理想が現状を大きく上回っています。約6割の人が「夫婦で同じくらい分担」したいと考えていますが、現状では2割以下となっています。



【子どもの育て方についての考え方】については、「女の子であろうと男の子であろうと性別にこだわらずに育てたほうがよい」が過半数を占めています。性別にみると、こだわらずに育てる考えは、男性より女性側に多いことがわかります。

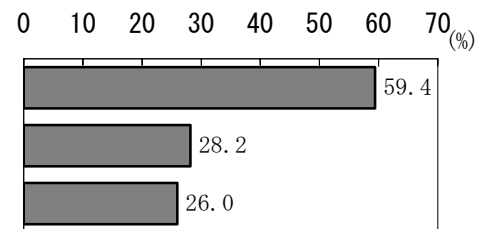


【望ましい子どもの育ち方】では、女の子は「思いやりのある人」、「自分のことは自分でできる自立した人」、「素直な人」が多くなっています。

一方、男の子は、「責任感のある人」、「思いやりのある人」、「自分のことは自分でできる自立した人」が多くなっています。

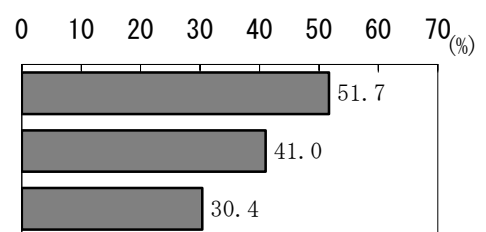
### 女の子に期待するもの 上位3項目

- 第1位 思いやりのある人
- 第2位 自分のことは自分でできる自立した人
- 第3位 素直な人



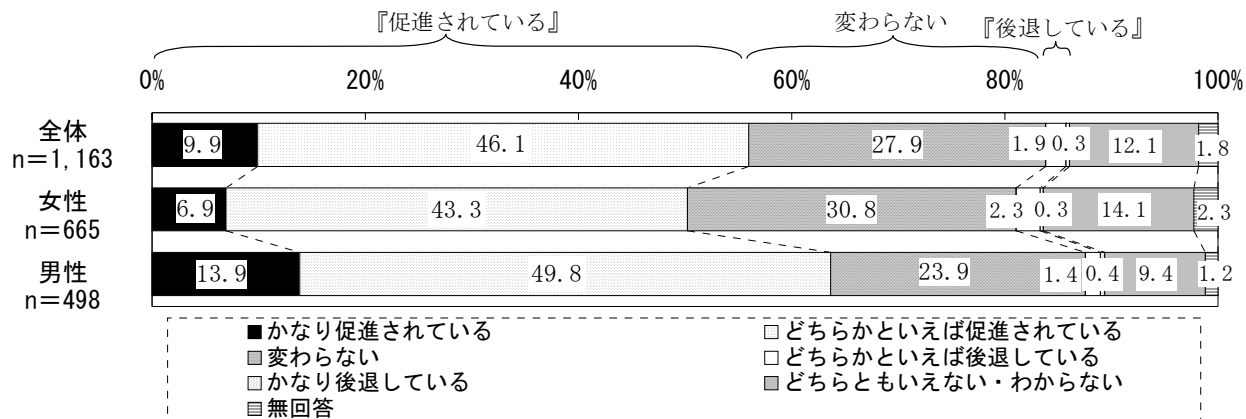
### 男の子に期待するもの 上位3項目

- 第1位 責任感のある人
- 第2位 思いやりのある人
- 第3位 自分のことは自分でできる自立した人



## 男女平等意識の促進

【5年前と比べた男女平等意識】については、「どちらかといえば促進されている」(46.1%)が最も多く、次いで「変わらない」(27.9%)、「どちらともいえない・わからない」(12.1%)の順となっています。また、『促進されている』は女性が50.2%、男性が63.7%で、男性の方が『促進されている』と考える割合が多いことがわかります。



※『促進されている』 = 「かなり促進されている」「どちらかといえば促進されている」を合算  
 ※『後退している』 = 「かなり後退している」「どちらかといえば後退している」を合算

## 今後に向けて

今回調査と平成14年に行った「家庭におけるジェンダー意識に関する調査」を比較すると、家事、育児、介護などにおける家庭での役割分担は「妻の役割」だとする回答が減少しました。また今回、理想では「夫婦で同じくらい分担」が多かったものの、現状では依然として「妻の役割」が多いとの結果が出ています。このことから、それぞれのライフステージによって柔軟に仕事と家庭生活、地域活動などの調和のとれた生き方ができるよう、環境の整備とさらなる意識の啓発が必要であるといえます。

また、約6割の人が夫婦共に子育てを行うことを理想としていることから、男性も女性と同様に育児に携われるような環境の整備や意識の啓発が必要です。労働環境の側面からは、育児休業・介護休業など両立支援の充実と、制度を利用しやすい環境整備や利用の促進が求められます。

子どもの育て方については、過半数が性別にこだわらずに育てたいとしていることから、男女が性別に関わりなく、伸び伸びと個性と能力を發揮することができるような基盤づくりが家庭、学校、社会などにおいて必要です。また、このためには、男女が家事、育児、介護など調和のとれた生活を送れるよう、男性側の共同参画意識を高めるための広報・啓発及び学習機会の提供が課題になります。

発行日： 平成19年3月  
 発行： 千葉市市民局生活文化部男女共同参画課  
 千葉市女性センター 電話 (043) 209-8771

※なお、本調査報告書は千葉市女性センター及び市内図書館にございますので、詳しくはそちらをご覧ください。